

2009

12月

第14号



ウツダイとよた

WOODY TOYOTA COMMUNICATION

通信



【発行日】平成21年12月1日

【発行】豊田森林組合

〒444-2424

豊田市足助町横枕3番地1

TEL 0565-61-1616

FAX 0565-61-1617

〈Eメール〉

soumu@woodytoyota.net

〈ホームページ〉

<http://www.woodytoyota.net/>

●表紙／安藤久氏さん(63歳で紹介)



大入第1森づくり団地(大坪町)

旭、下山、稲武の3地区で 森づくり団地見学会を開催

「山のことを考え、行動しよう」のテーマで、10月24日、25日の両日にわたって、「豊田森林組合もみじ市まつり」を管内各所で開催した。

主な行事は、森づくり団地の促進をねらいにした「森づくり団地現地見学会(バスツアー)、事例発表、講演会」などで、森づくり会議役員をはじめ多くの組合員の参加があった。また、優良材品評会、林業機械の展示・販売なども開催。参加した約500人の組合員は、森づくりの大切さや森林整備の必要性を改めて認識する一日となったのでは…。今号では、写真でもみじ市まつりをレポートした。

●**森づくり団地現地見学会**は、旭(大坪町、榊野町)、下山(羽布町、東大林町)、稲武(稲武町)の3地区で実施されている森づくり団地内での施業(間伐)を視察した。参加者からは、「明るくなっとるわ」「3割、4割の間伐もそう変わらん」「台風などの強風でも目立って倒れない」「材価が安い時は、辛抱が必要だ」「将来、後悔しないためにも、今、手を入れておくことが必要だ」…などの声があった。



細田森づくり団地(東大林町)



高性能林業機械による列状間伐の説明を聞く(東大林町)



4割間伐の実態を視察(大坪町)



間伐の必要性を確認(榊野町)



講師の話聞く参加者



スライドを使ってわかりやすく講演する講師/速水亨さん

●**森づくり講演会**は、「適切な森林管理と木材生産の両立…今やるべきことは」を演題に速水亨さん(速水林業代表、社団法人日本林業経営者協会会長)が約1時間余にわたって、スライドを使ってわかりやすく講演された。その要点は、次のとおり。

講師 速水 亨さん

「適切な森林管理と木材生産の両立」 今やるべきことは…

’09もみじ市まつり
特集

●事例発表会 / 意見交換会



先進事例を発表する加塩地域森づくり会議役員の松井金之助さん

「適切に管理された人工針葉樹林は天然林に匹敵する水土保全能力を発揮することができる。FSC認証を通して自分の山を見つめ、戦略的で持続的な林業経営を再考してみてもどうだろうか。所有規模が小さいことを生かした、パッチ状林分構成を(地域全体で)目指すべきだ。自然や地域と共に山づくりを進めることで、森林再生の方向が開ける」などであった。



意見交換で質疑をする参加者



●もみじ市まつり優良材品評会 知事賞の水越秀洋さんから8人が受賞

平成21年度もみじ市まつり優良材品評会受賞者

(敬称略)

賞名	出荷者	出荷者住所	森林の所在地	樹種	樹齢(年)	長さ(m)	末口(cm)	木積(m ³)
愛知県知事賞	水越秀洋	豊田市川面町	豊田市川面町	檜	110	8.0	38	1.280
豊田市長賞	加藤節子	豊田市近岡町	豊田市梨野町	檜	90	4.0	30	0.360
豊田市議会議長賞	川合和夫	豊田市和合町	豊田市和合町	檜	80	4.0	32	0.410
愛知県森林組合連合会長賞	(財)古橋会	豊田市稲武町	豊田市稲武町	檜	70	4.0	36	0.518
愛知県森林協会会長賞	糟谷木材(株)	豊田市小渡町	豊田市伊熊町	杉	180	4.0	46	0.846
足助木材同業組合長賞	松下 茂	豊田市大野瀬町	豊田市大野瀬町	杉	60	4.0	40	0.640
豊田森林組合長賞	横山常好	豊田市宇連野町	豊田市宇連野町	檜	40	3.0	18×1 20×3	0.457
	加納幸正	豊田市怒田沢町	豊田市怒田沢町	檜	90	8.0	36	1.155



知事賞を受賞された水越さん



チェーンソー

目立講習会と林業機械の 展示即売会に300人が

チェーンソーの点検を実演する講師



林業機械の展示、即売会には多くの組合員が来場

あいち森と緑づくり税で

県下初の間伐を三

豊田森林組合は、10月23日(金)午前10時から、現地周辺で「あいち森と緑づくり森林整備事業(人工林)第1号工事」の安全祈願式を開催した。

この工事は、愛知県が今年度から導入した「あいち森と緑づくり税」を財源として、手遅れとなっている人工林の間伐を行うもので、10月9日に実施された指名競争入札で当森林組合が落札した。同税による工事(間伐)の実施は、県下初めてとなる。このため、組合は、本工事の安全と「あいち森と緑づくり森林整備事業」が多くの県民に理解されることをねらいに森林所有者

チェーンソーの目立て講習会



支所の紹介

小原藤岡支所 豊田市小原町堂ノ本173-3
電話 65-2003 FAX 65-1727

「就任して早や半年、新体制で臨みます」

豊田市の北方、岐阜県瑞浪市と土岐市に隣接し、「おぼら和紙」と「四季さくら」で名高い旧小原村、北緯35度13分、東経137度17分、標高275mのところ豊田森林組合小原藤岡支所は、あります。平成17年、7つの組合が合併して今年でちょうど5年目に入りました。

去る、6月21日の総代会において役員改選があり、小原藤岡支所管内の理事は、藤岡地区の山本幹郎さん、鳥居岩男さん(いずれも再任)と小原地区の勝豊治さん、山田利幸さん、鈴木和廣さん(いずれも新任)、総代は藤岡地区10人、小原地区20人、推進員は藤岡地区10人、小原地

区12人、連絡員は藤岡地区20人、小原地区42人です。職員は、大林鈴彦支所長と鈴木慎一係長、能見登志子さんと主に森林整備事業に従事している加藤錠一さん、山田正さん、加藤勝茂さんが毎日がんばっています。

今年の小原藤岡支所の事業計画は「組合員さんの山を守り、整備する」ことを目標としています。特に豊田市が進める「森づくり基本計画」による「森づくり会議」が立ち上がった地域の間伐を日々、進めています。より一層、間伐が進むよう組合員の皆様のご協力、ご支援をお願いします。



小原藤岡地区の森づくりを支える役員、職員の方々

安全祈願式であいさつする中根組合長

分山^(旭地区)で豊田森林組合が実施

を始め関係者約40人が参加しての安全祈願式となった。
組合長は「目標とする面積(200㍍)には、至らないが、県下で最初に間伐ができたことは光栄である。引き続き、管内力所において新税を使っての間伐を進めていきたい」とあいさつし、関係者に協力を呼びかけた。
なお、県下初となる工事(間伐)は、市内三分山町地内(旧旭町)の森林7.22㍍で約6,000本のスギ、ヒノキを伐採(間伐率は40%)するもの。



表紙の

人物紹介

今回、紹介するのは、旭地区に在住する指導林家の安藤久氏さんです。安藤さんは、旭地区で生まれ、高校卒業と同時に小牧市内の原木市場へ就職。その後は、住宅資材センターを経て、地元へ戻り、家業である林業を継ぎ、以来30年林業を生業としています。

長年、木材の伐採作業に関わってきた安藤さんですが、現在、自宅の建築という大きな仕事に執りかかっています。きっかけになったのは、昨年落雷により自宅を焼失したこと。それまでは、建て替えを考えていなかったようですが、突然の天災で新しく建てざるを得ないという状況におかれたことです。

新築するにあたって、ハウスメーカーに頼んで建てた方が安くて早いという意見もあったそうですが、これまで山仕事を生業とし、山の恵みを受けてきた者として、やはり地元の材を使った家を建てたいということで、所有林のスギを使っての軸組工法で建築することにしました。特徴は、柱などの構造材はもちろん、床板、壁も土壁でなくスギ板を使った100%スギの家です。この東海地方では、建築材としてはヒノキが主流ですが、

他の地域では、スギの家が多くあり、安藤さんはスギの良さを実感しました。「暖かみがあり、歳月を経るごとに味わいが感じられるスギで家を作りたいと思っていた。また、ある材料でできるものを作る」ことなどがスギの家を建築するきっかけとなりました。

昨年10月の新月に所有林の木を伐採し、半年間、葉枯らした後、採寸して玉切りをし、スイングヤードを使って材を搬出しました。その後、旭地区のあさひ製材で製材し、現在はその材を自然乾燥中です。11月には、蒲郡のプレカット工場でモルダー加工を行い、組み立てに入る予定とのこと。どんな家ができあがるか楽しみです。

材価が低迷している現在、ヒノキに比べて市場価格が安いスギ材は、材料として十分使えるような材でも搬出すれば赤字になるケースもあります。しかし、お金に換えると価値が低くなってしまいう木材でも、建築材としての価値は、十分にあります。

今の木材流通の仕組みの中で、材価を個人で変えることは、難しいですが、どうしたら地元の資源を有効に活用できるかを森林所有者自身が知恵を出し合っていくことで新しい道が開けるかもしれません。



地産地消を実践 自宅を全てスギ材で新築

指導林家である 安藤久氏さん (坪崎町在住) 58歳

● 森林学校ニュース ●

● 山主森林経営講座

9月26日に全9回が終了しました。第8回の「持ち山見学会」では、参加者数名の山に行き、意見交換しながらそれぞれ条件の異なる山を見学し、とても参考になったようです。最終回にはまとめの講義と意見交換を行い、参加者それぞれの前向きな意見を聞くことができました。最後に9名全員に修了証が渡され、感慨深く講座が終了しました。



見学中カモンシカの親子に遭遇!

● 山主自力間伐講座

9名の山主さんが受講。10月19日から5日間で間伐の基礎を学びました。初日には山造りの考え方と森林調査、2~4日にはチェーンソーの使い方から初め、基本的な伐倒方法やかかり木処理を繰り返し行いました。連続5日のハードスケジュールでしたが、一緒に受講した参加者同士の仲間もでき、よい雰囲気です。無事講座を終えることができました。



←受け口を作る練習



かかり木処理の例→

山主森林経営講座 参加者の感想

- ★「山のしくみや効用などの基礎的なことから、今後の山林のいかし方まで豊富な内容を詳しく聞くことができ、大変よかった。」
- ★「すばらしい学びの場です。皆に宣伝したい。沢山の人が受講することを願っています。」
- ★「Part2があれば参加したい気持ちです。」
- ★「少しでも林業経営が出来たら良いと思います。」
- ★「間伐の大切さがよく判りました。」
- ★「知らないことが多く、とてもいい勉強になった。」
- ★「いろいろなきのこと栽培について、もう少し勉強したい。」
- ★「間伐林、まいたけ栽培等の見学は参考になりました。感覚的に学んだことは役に立ちます。」

★講座の情報・開催の様子などはホームページにも掲載しています。そちらもご覧ください。 クリック!

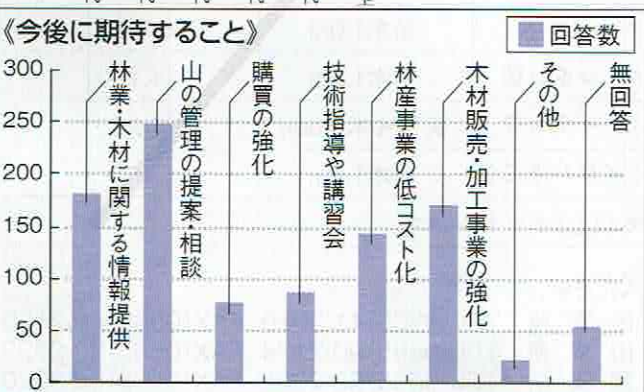
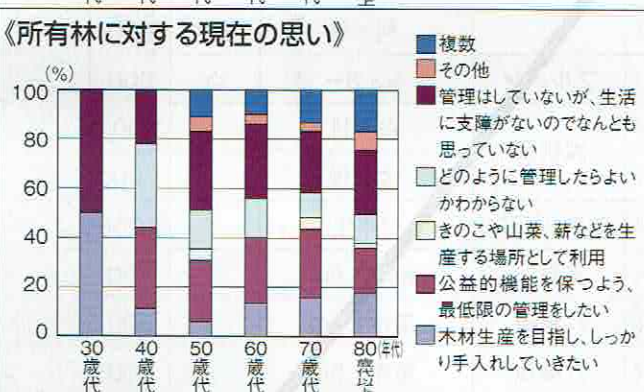
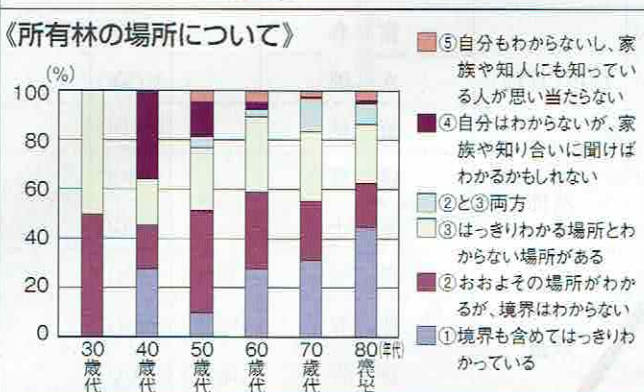
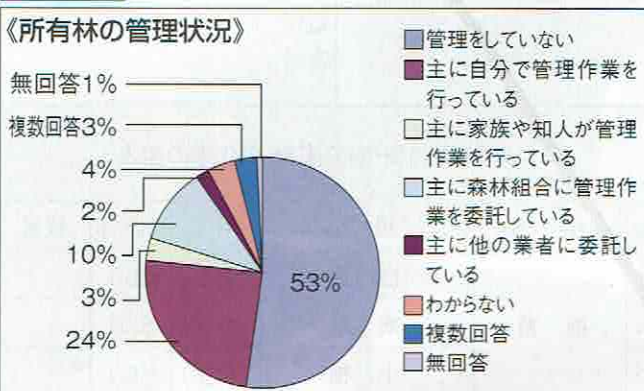
○組合員アンケート調査から

53%の人は「所有林を管理していない」

7月に組合の現状把握のため組合員アンケートを実施しました。お忙しい中アンケートに協力いただきと共に様々なご意見を寄せていただきました。ありがとうございました。

アンケート結果については、現在、策定中の「豊田森林組合中期経営計画」に活かしていきます。今回は、主なアンケート結果を紹介します。

主な内容



主な意見

- 「林道を開設してほしい」など林道・作業道開設要望(9件)
- 「間伐の補助情報がほしい」など補助金制度や管理方法の説明要望(13件)
- 「材木の販売に力を入れてほしい」「木材需要促進してほしい」など間伐材利用や販売促進について(11件)
- 「場所を確認したい」など場所や境界について(7件)
- 「間伐材を切り倒したままで遺憾である」「依頼をしたが、忙しそうでなかなか順番が来ない」など組合の仕事のやり方に対する意見(11件)
- 「補助金に頼らなくてもやっていける林業であってほしい」など組合や林業の今後のあり方について(15件)
- 名義変更に関すること(10件)

その他、「高齢のため山に行けなくなった」「定年後に始めたい」「山に入らなくなり獣害に困っている」「木材が安く熱が入らない」「地域での講習会を開催してほしい」「一般市民に森林昨日の重要性をアピールしてほしい」など多くの意見をいただきました。

アンケート概要

- アンケート実施期間
平成21年7月10日～7月31日
- 方法
対象者は、各地区の組合員数に応じて、無作為に800人を抽出し、郵送で調査票を回収しました。各地区の対象者は、足助176人(22%)、旭85人(11%)、稲武71人(9%)、小原藤岡112人(14%)、下山66人(8%)、豊田201人(25%)、その他89人(11%)でした。
- 回収結果全回答者 450人(全回収率 56.3%)、うち有効回答数 431人(有効回答分回収率 53.9%)

